

247	ジアゼパム	防風通聖散の長期服用中に肝障害の劇症化に至った症例。
248	メトトレキサート	MEA療法による副作用としてgrade4の白血球の減少及び血小板の減少がそれぞれ4%および5%発現した。MEA療法とFA療法による現在の化学療法は高リスク妊娠性絨毛癌に対し効果があり、毒性は受け入れられるまたは管理出来る程度のものであった。
249	メトトレキサート	乳癌と診断され、手術後アジュバント化学療法として1984年から1998年に静注によるCMF量法を開始した患者750例において検討した。
250	エストラジオール	過去のエストロゲン補充療法施行が、腎臓癌のリスクファクターであることを示唆する結果が得られた。
251	メロニダゾール	メロニダゾールを使用して治療されたトリコモナス膣炎の女性から生まれた子はメロニダゾールを使用しなかった群に比べて、早産率、低体重児の出生率、2年間での死亡率が高かった。
252	ワルファリンカリウム	ジゴキシン、フェニトインおよびワルファリンを常用していた患者について、服用方法等も正常であったが、胃腸・心膜の出血を起こし、死亡した症例。
253	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンは血管には直接作用しない。また、NSAIDsは生理的状況では血管緊張性に悪影響を及ぼさないが、全身性炎症反応症候群のある状況では血管COXの阻害で小動脈血管収縮を悪化させる。
254	クロバザム	クロバザムは難治の成人のてんかんに有効であるが、耐性の発現率や副作用の発現率も高かった。副作用のスクリーニングとして、デスメチルクロバザム血中濃度とデスメチルクロバザム/クロバザム血中濃度比は有用と考えられ、活性代謝物であるデスメチルクロバザムが有効性の面だけでなく、安全性の面でも関与している可能性が示唆された。
255	シスプラチン	上咽頭左側壁腫瘍と左頸部リンパ節腫大がみとめられ、CDDPと5-FUを併用した化学放射線療法(総線量66Gy)にて完全寛解したが、治療10年後、骨肉腫と診断され、同病変は放射線治療照射野内に発生しており、化学放射線療法後の二次的骨肉腫と診断された。
256	メトトレキサート	1994年1月から2000年9月までのドイツの泌尿器癌センター40施設から325症例を無作為にCM療法又はMVEC療法にわけたところ、アジュバントCM療法を受けた患者ではMVEC療法を受けた患者よりもグレード3/4の白血球減少は少なかった、しかし、薬物関連死がCM療法で2例みられたが、MVEC療法では死亡例はなかった。
257	ホリナートカルシウム	前治療のある進行性結腸直腸癌でベバシズマブに関する臨床試験で本剤を併用した患者において2例死亡(脳出血1例、肺機能不全1例)が報告された。
258	ホリナートカルシウム	大腸癌術後補助療法としてのLV5FU2単独とLV5FU+CPT-11の比較試験で、本剤併用群で1例が治療関連死した。
259	エストラジオール	エストロゲンを過去に使用した群での、腎臓癌リスクの増加を示唆する結果が得られた。
260	プレドニゾロン	慢性関節リウマチのためプレドニゾロン25mg/日を内服した男性にEnterococcus faecalisによるFourniers gangrene壊死性筋膜炎が発症した。
261	ニトラゼパム	多種類の向精神薬内服による網膜症の発症。
262	ヒトインスリン	救急搬送された心肺停止(CPA)患者270名のうち、血糖値が明かな167名を対象とし、低血糖のCPA患者についてレトロスペクティブに検討した結果、CPAあるいは低血糖の原因としてインスリンが考えられた1例症例報告。
263	塩酸アムルピシン	再発小細胞肺癌に対し、塩酸アムルピシンを投与し、13例中7例に発熱性好中球減少が見られたとの報告があった。
264	プレドニゾロン	化学療法施行後に小腸穿孔を繰り返した悪性リンパ腫の1例。
265	ポルフィマーナトリウム	切除不能胆管癌(NCC)の患者39名を対象とした群配列デザインのプロスペクティブオープンラベル無作為化多施設共同試験において、致死性的有害事象の胆管炎および敗血症が発現した。
266	塩酸ピルジカイニド	Brugada型心電図変化を有する症候性・無症候性の患者に対し、本剤負荷試験を施行した結果、症候例では無症候例に比べ、本剤による負荷試験時に心室性不整脈が誘発された頻度が高かった。
267	インドシアニングリーン	黄斑円孔手術において、円孔閉鎖率を高める目的で内境界膜剥離術が行われるが、その視認性の向上のためインドシアニングリーン染色が行われてきた。しかし、最近ではICGによる網膜毒性についての報告がみられる。今回、ICGを用いた硝子体手術の視力成績から、その網膜毒性について臨床的に検討した。
268	インドシアニングリーン	インドシアニングリーン(ICG)染色による内境界膜剥離を併用した黄斑円孔(MH)及び黄斑前膜(ERM)術後の網膜神経線維層厚の変化を光干渉断層計にて検討した。

269	レセルピン	レセルピンによるIRSB施行後、著名な起立性低血圧と強度の頭痛が生じた。
270	エチゾラム	多種類の向精神薬内服による網膜症と考えられる一症例。
271	ホリナートカルシウム	本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。
272	ホリナートカルシウム	本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。
273	ホリナートカルシウム	本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。
274	ホリナートカルシウム	本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。
275	ホリナートカルシウム	本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。
276	メソトレキセート	抗癌剤の動注療法は高濃度の抗癌剤を直接腫瘍へ作用させることで局所的抗腫瘍効果を高め、全身性副作用を低くしようとする方法である。抗癌剤の動注療法を施行し、治療効果と合併症について検討した。
277	ホリナートカルシウム	本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。
278	ホリナートカルシウム	本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。
279	塩酸ミトキサントロン	本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。
280	デキサメタゾン	化学療法が誘発する嘔気および嘔吐予防のため、530名の患者に標準療法(オンダンセトロンとデキサメタゾン)とアプレピタント療法(オンダンセトロンとデキサメタゾンにアプレピタントを追加)の何れかを投与し、その有効性及び安全性について比較した多国施設、二重盲検試験の研究報告。
281	デキサメタゾン	デキサメタゾン等を肝動脈注入した群において、毒性としてgrade3の好中球減少症及び下痢、grade4のビリルビン上昇が認められた。
282	ニトログリセリン	陳旧性心筋梗塞患者における長期間の硝酸薬持続投与は、心事故を増大する。
283	塩酸ヒドララジン	Nifedipine, labetalol, isradipineを投与した場合と比較すると、妊娠中の重症高血圧患者の第一選択薬としてhydralazineを使用することを支持するものではないとの結果を得た。
284	デキサメタゾン	ホルモン抵抗性前立腺癌の患者16名に対して、ミトキサントロン、ドキタキセル、デキサメタゾン及びプレドニゾンから成る化学療法を行い反応率等の有効性を評価。
285	塩酸バンコマイシン	Pennsylvania州のHershey Medical Centerに入院した患者から2002年9月にバンコマイシン耐性MRSAが分離された。
286	アンブレナビル	アタザナビルとアンブレナビルの併用によりアンブレナビルの血中濃度は上昇する。
287	ジクロフェナクナトリウム	HBVキャリア患者において、感冒様症状のためジクロフェナクナトリウム坐剤を使用したところ、GOT、GPT、ビリルビンが上昇し、薬剤性肝炎が疑われた。
288	沈降破傷風トキソイド	破傷風ワクチン接種後に急性心筋炎を発現した1例。
289	フルオロウラシル	乳癌にて右乳房切除後、5-FU+TAMIによる化学療法を2年間施行し、その3年後に汎血球減少を指摘された。
290	スピロラクトン	重症のうっ血性心不全患者へのスピロラクトン服用は腎機能障害や高カリウム血症を引き起こす可能性があるため、患者コホートを追跡調査し、有害作用の予測因子を同定した。その結果、以前に考えられていたよりも高頻度の有害作用と関連しており、予測因子として年齢や過剰な利尿を可能性として示唆している。
291	ミコフェノール酸モフェチル	免疫抑制剤ミコフェノール酸モフェチルは、下痢等の消化管障害がよく知られている。承認時までの調査では下痢の発現率は281例中37例であったが、市販後には承認時よりも高頻度で下痢を発現すると言われている。そこで今回、MMF服用者と非服用者間でも下痢の発現頻度、発現時期、ならびに重症度について比較調査を行った。
292	ジギトキシン	ジギトキシンによって、重篤なせん妄が発現した。
293	プレドニゾン	microscopic polyangiitisのためプレドニゾン治療を受けた女性が脳炎を伴う汎発性帯状ヘルペス感染症を罹患した。

294	塩酸ミトキサントロン	ミトキサントロンを使用した臨床試験において、本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。
295	塩酸ロメフロキサシン	lomefloxacin にE.coli WP2uvrA/pKM101に対して遺伝子突然変異誘発作用が認められた。
296	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用期間が長いほど、子宮頸癌のリスクが上昇した。
297	酢酸メドロキシプロゲステロン	エストロゲン及びプロゲステロンによる閉経後ホルモン療法を5年以上受けている患者では、ホルモン療法を受けていない患者に比して、予後が良好な腫瘍と予後が不良な腫瘍の双方を含む乳癌の発症率が高かった。
298	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	テガフル/ギメスタット及びテガフル/ウラシルの使用経験。GOTが500mg/dl以上を呈した患者が各2例あった。
299	ヒトインスリン	血糖不安定の原因として甲状腺機能亢進症の合併が判明した例とインスリン抗体によるインスリン効果の不安定性、インスリン皮下注射における血中移行の不安定性、糖尿病性神経障害による胃腸運動の不安定性などが考えられた症例報告。
300	ワルファリンカリウム	ワルファリン投与中の脳出血患者における初診時の神経学的症例の比率及び死亡率の上昇について。
301	塩酸アミトリプチリン	多種類の向精神薬内服による網膜症と考えられる1症例報告。
302	酢酸メドロキシプロゲステロン	エストロゲン及びプロゲステロンによる閉経後ホルモン療法を5年以上受けている患者では、ホルモン療法を受けていない患者に比して、予後が良好な腫瘍と予後が不良な腫瘍の双方を含む乳癌の発症率が高かった。
303	プレドニゾン	prednisoloneを長期間内服した患者が感染症のため深頸部膿瘍に罹患した。
304	エストラジオール	エストラジオール貼付剤使用例で乳癌を発症した。
305	トラネキサム酸	上部消化管出血に対するトラネキサム酸使用が誘引となり膝窩部動脈血栓症を発症したと推測された1例。
306	シスプラチン	肝外転移を有する肝細胞癌に対し、FMP療法は優れた抗腫瘍効果を示した。
307	ホリナートカルシウム	本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。
308	アスピリン	アスピリンを20年以上常用している女性では膵臓癌の発症リスクが上昇する可能性がある。
309	クエン酸タモキシフェン	子宮内膜症は閉経後女性に見られることはきわめて稀であるが、閉経後20年以上経っているにもかかわらず、両側卵巣内膜症性嚢胞にて開腹手術を施行した症例を経験した。
310	インドメタシン	パラセタモールとシクロオキシゲナーゼ阻害剤との併用は、中動脈や小血管の血管収縮により重症パラセタモール中毒を増悪させる可能性がある。
311	エビネフリン	エビネフリン注射器について米国から輸入途中で注射針の自然射出発生の有無を検討すると共に、携帯時の落下や圧力を加えた時の自然射出及び破損並びに機能の不具合の発生について検討した。
312	ヘパリンナトリウム	ヘパリン投与例においてヘパリン起因性血小板減少症の発現が認められた。
313	ヘパリンナトリウム	血液透析中にヘパリンを使用した患者において、脈絡膜出血の発現を認めた。
314	塩酸ミノサイクリン	塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(発熱・呼吸困難)を発現した男性患者について。
315	塩酸ミノサイクリン	塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(発熱・呼吸困難)を発現した男性患者について。
316	塩酸ミノサイクリン	塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(呼吸困難)を発現した女性患者について。
317	塩酸ミノサイクリン	塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(発熱・呼吸困難)を発現した女性患者について。
318	塩酸ミノサイクリン	塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(呼吸困難)を発現した男性患者について。
319	塩酸ミノサイクリン	塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(呼吸困難・咳)を発現した男性患者について。
320	塩酸ミノサイクリン	塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(発熱・呼吸困難)を発現した男性患者について。
321	塩酸ミノサイクリン	塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(呼吸困難)を発現した男性患者について。

322	塩酸ミノサイクリン	塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(発熱・呼吸困難)を発現した女性患者について。
323	塩酸アミトリプチリン	向精神薬によると考えられる中毒性網膜症。
324	アルファカルシドール	HRTとアルファカルシドール併用群とHRT単独群の骨粗鬆症に対する有用性を比較した多施設共同研究。
325	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	1984年から1988年の期間に生検により浸潤性子宮頸癌の確定診断を受けた20歳から44歳までの白人女性患者の症例に治験センターの症例を追加した子宮頸部の腺癌患者180名、及び扁平上皮癌患者391名を対象とし、対照群923名と比較したケースコントロール研究から、子宮頸部の浸潤性扁平上皮癌および腺癌のリスクファクターに関する結果を報告する。
326	硝酸イソソルビド	陳旧性心筋梗塞患者における長期間の硝酸薬持続投与は、心事故を増大する。
327	エストラジオール	エストラジオール製剤使用中に乳癌を発症した。
328	ジクロフェナクナトリウム	アモキシシリンのラットにおける血清及び組織内濃度、S.aureus感染に対するジクロフェナクナトリウムの影響について。
329	エストラジオール	心疾患を有する閉経後女性へのホルモン補充療法により、胸囲の増加を生じた患者では冠動脈性心疾患による死亡リスク及び総死亡リスクが増加した。
330	トロンビン	静脈瘤出血の患者に、トロンビンとトラネキサム酸投与後、肺動脈血栓症を認め、その結果、肺動脈高血圧症、右心不全、右室心筋梗塞を合併した。
331	トロンビン	肺動静脈脈絡を伴う肝硬変症の患者が、食道静脈瘤硬化療法の際、トロンビンとエタノール投与後に小肺梗塞と低酸素症の増悪を認めた。
332	ジクロフェナクナトリウム	アモキシシリンのラットにおける血清及び組織内濃度、S.aureus感染に対するジクロフェナクナトリウムの影響について。
333	ケトコナゾール	ドセタキセルとケトコナゾールとの併用が重大な臨床経過をもたらす薬物相互作用を起こす可能性がある。
334	メトレキサート	抗リウマチ薬の単剤投与あるいは多剤併用投与における副作用の発現頻度について検討を行った。
335	プロピルチオウラシル	バセドウ病と診断され、PTU内服中、急速進行性腎炎を発症、腎生検で半月体形成腎炎と診断された。
336	ポビドンヨード	広範囲重傷熱傷患者にポビドンヨード製剤を使用したところ、ヨード中毒を来し、腎不全、高塩素血症、代謝性アシドーシスを発症した例。
337	酢酸メドロキシプロゲステロン	横断的研究において、閉経後ホルモン補充療法による治療群は未治療群に比し、偏頭痛が高頻度に発現したことが報告された。
338	ソマトロピン	長期にわたる成長ホルモン(GH)治療は、耐糖能低下とインスリン抵抗性を誘発する可能性があるため、注意深い経過観察が必要である。
339	ジクロフェナクナトリウム	膝又は股関節の変形性関節症患者に対して、エトリコキンプ60mgを1日1回、又はジクロフェナクナトリウム50mgを1日3回投与し、有効性及び認容性を評価し比較した。
340	トラネキサム酸	トロンビンとトラネキサム酸との併用禁忌
341	トラネキサム酸	トロンビンとトラネキサム酸との併用禁忌
342	下垂体性性腺刺激ホルモン	ゴナドトロピン療法により発症した卵巣過剰刺激症候群に脳梗塞が併発した。
343	インターフェロン $\alpha$	亜急性硬化性全脳炎(SSPE)において、イソプリノシンの単独投与とイソプリノシン+脳室内インターフェロン $\alpha$ 2b(イントロンA)の併用投与の比較において有効性に有意差がなかった。
344	塩酸ミトキサントロン	未治療で高齢のlargeB-cell悪性リンパ腫の患者に対する簡潔で持続的化学療法の効果を調査する試験において、ミトキサントロンとの関連性が完全には否定できない死亡例が4例報告された。
345	塩酸ミトキサントロン	幼年期の急性骨髄性白血病に対するInternational Outreach-97 protocolの結果、ミトキサントロンとの関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。
346	トリアムシノロンアセトニド	922人に対して硝子体内へのトリアムシノロンアセトニド眼注術を施行したところ8人の急性眼内炎が報告された。
347	スピロラクトン	心不全患者に対するスピロラクトンとACE阻害薬もしくはアンジオテンシンII受容体阻害薬(AT <sub>2</sub> 拮抗薬)の併用で高カリウム血症が発現した。
348	メシル酸ジヒドロエルゴタミン	セロトニン症候群は、中枢神経系及び末梢セロトニン受容体活性が過度に更新することなく発症する。本症候群は、通常、セロトニン作動薬との併用により発生するが、単一薬剤でも起きる可能性がある。異なる作用メカニズム、例えば、セロトニン取り込みやセロトニン代謝を抑制することにより、セロトニン活性を更新する薬剤との併用は、特に可能性が高い。

349	プラバスタチンナトリウム	スタチン系薬の高用量投与は、高齢者で腎または肝不全、糖尿病、甲状腺機能低下の患者で注意が必要となる。さらに特に注意が必要なのはシンバスタチンやアトルバスタチンが投与されている患者で短期間にマクロライド系抗生物質やアゾール系抗真菌薬と併用投与されると、一時的にこれらのスタチン系薬を中止する配慮が必要である。
350	アンブレナビル	プロテアーゼ阻害剤(PI)の18ヶ月以上の投与は心筋梗塞の発症リスクを上げる可能性が示唆された。
351	アザチオプリン	アザチオプリン投与により炎症性腸疾患患者での発癌リスクが上昇することが示唆された。
352	硝酸イソソルビド	陳旧性心筋梗塞患者における長期間の硝酸薬持続投与は、心事故を増大する。硝酸薬間欠投与は、心事故を増大しないが、心事故の防止効果はない。
353	クエン酸タモキシフェン	乳癌で両側乳房切除術を施行しタモキシフェン20mg/日の服用を開始したところ視神経網膜症が発現した。タモキシフェン内服を中止して経過を観察したところ視力は徐々に回復し視神経乳頭の浮腫と網膜の浮腫、硬性白斑は消退した。
354	アスピリン	抗血小板療法中に胸腰椎に発生した脊髄硬膜外血腫の1例報告。
355	メトトレキサート	中枢神経系の非ホジキンリンパ腫患者にメトトレキサートの大量静脈内投与および随腔内投与を含むMBVP化学療法および放射線療法を施行し、重篤な血液毒性、感染症、口内炎、肝毒性、アレルギー反応、皮膚毒性等が発現し、治療に関連した死亡が6例認められた。
356	メトトレキサート	C5Rレジメン療法についてGELA内でプロスペクティブな多施設試験を実施した。1995年から2002年の期間にHIV陰性のPCNSL患者102例に放射線療法を全脳照射20Gyおよび原発腫瘍部位への照射を伴う化学療法5コースを施行したが、61歳以上の患者でC5Rレジメンを施行するときは毒性が有意に問題となることが示唆された。
357	フルバスタチンナトリウム	スタチン系薬の高用量投与は、高齢者で腎または肝不全、糖尿病、甲状腺機能低下の患者で注意が必要となる。さらに特に注意が必要なのはシンバスタチンやアトルバスタチンが投与されている患者で短期間にマクロライド系抗生物質やアゾール系抗真菌薬と併用投与されると、一時的にこれらのスタチン系薬を中止する配慮が必要である。
358	デカン酸ハロペリドール	ハロペリドールを含む定型抗精神病薬服用中の患者は、非服用者と比較して有意な致死性肺塞栓症のリスクの上昇が認められた。
359	グリチルリチンアンモニウム塩、アミノ酢酸、L-システイン	グリチルリチン酸アンモニウムを妊娠7-17日のSDラットに飲料水を介して投与したところ、同腹子の胎児において外表奇形の増加、体重の減少及び骨形成の減少は認められなかったが、胎児死亡率及び外出血の頻度に関し有意な増加が認められた。また、骨格検査により、投与量に依存して軽度の異常が特に胸骨変異について観察された。
360	プレドニゾン	重症潰瘍性大腸炎と診断され、ステロイドパルス療法、ステロイド動注療法などの内科的治療を施行していたが、腰痛が出現し直立困難になるなど、骨粗鬆症の増悪が懸念された。
361	トラネキサム酸	血液透析患者にTNAを過量投与したところ視覚障害を引き起こしたことが強く示唆された。TNAは主に腎臓で代謝されるため、腎不全のある患者にTNAを投与する場合には注意は必要である。
362	ダナゾール	ダナゾールとリュープロリド/ナファレリンについて、各々の薬剤と卵巣癌発生との関連性をcase-control studyで検討した結果、リュープロリド/ナファレリンと比較して、ダナゾールは卵巣癌発生の危険性を高め、アンドロゲンには卵巣癌の発生と関係があるかもしれないことが示唆された。
363	酢酸メドロキシprogesteron	横断的研究において、閉経後ホルモン補充療法(HT)による治療群は未治療群に比し、片頭痛が高頻度に発現したことが報告された。
364	グリチルリチンアンモニウム塩、アミノ酢酸、L-システイン	グリチルリチン酸アンモニウムを妊娠7-17日のSDラットに飲料水を介して投与したところ、同腹子の胎児において外表奇形の増加、体重の減少及び骨形成の減少は認められなかったが、胎児死亡率及び外出血の頻度に関し有意な増加が認められた。また、骨格検査により、投与量に依存して軽度の異常が特に胸骨変異について観察された。
365	硫酸サルブタモール	喘息患者に対するホルモテロールとサルブタモールの有効性比較試験。投与期間は6ヶ月間。ホルモテロール投与群、サルブタモール投与群ともに喘息増悪や肺炎等の有害事象は出現した。
366	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	切除不能進行胃癌に対するTS-1を含む化学療法において、grade4のNeutropeniaが1例認められた。
367	塩酸バンコマイシン	2002年の外眼部感染症患者から臨床分離株・ブドウ球菌属に対する累積発育阻止率を算出した結果、高度感受性域にない菌株について調査したところ、1例の患者の眼脂よりVCMIIに対するMIC値が>128 µg/mlを示した黄色ブドウ球菌1株が単離された。
368	ハロペリドール	ハロペリドールによると思われる白血球減少1200/µlが出現したが、薬剤中止により好中球は回復した。

369	リファンピシシ	珪肺症を伴う潜伏結核感染(LTB1)患者に対し、リファンピシシとピラジナミド併用療法とイソニアジド単独療法を比較した場合、2RZの方が肝機能障害の発現率が高いという結果が報告された。
370	ヒドロクロロチアジド	高血圧治療にチアジド系利尿剤とβ遮断剤との併用することは糖尿病の発症リスクを増大する可能性がある。
371	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬(OC)の使用は、子宮頸部腺癌及び扁平上皮癌のリスクを増加する可能性がある。
372	プレドニゾン	アメーバ性大腸炎穿孔にアスペルギルス肺炎を併発した1例報告。
373	エストラジオール	乳癌既往のある女性へのホルモン補充療法(HRT)に関する無作為化臨床試験が中間解析によりHRT使用者の乳癌再発リスク上昇が示唆され、中止になった。
374	エストラジオール	心疾患を有する閉経後女性へのホルモン補充療法により、胴囲の増加を生じた患者または体重減少した者で冠動脈性心疾患による死亡リスクが増加した。
375	リスペリドン	抗精神病薬の投与により高齢者において糖尿病発現のリスクが上昇することが示唆されたが、定型及び非定型の薬剤間における有意差は認められなかった。
376	エストラジオール	乳癌既往のある女性へのホルモン補充療法(HRT)に関する無作為化臨床試験が中間解析によりHRT使用者の乳癌再発リスク上昇が示唆され、中止になった。
377	レノグラステム	造血幹細胞移植後にG-CSFを投与した群と非投与群でGVHD発生や生存率を比較したところ、PBSCTでは差が無かったが、BMTではG-CSF投与群において、有意にGVHDの発生が増加し予後も不良であった。
378	酢酸エテンジオール・エチニルエストラジオール	飲酒の継続とともに中用量ピルを常用していたアルコール性肝障害の女性患者が若年にもかかわらず、短期間でアルコール性肝硬変へと進展し、肝不全で死亡した。
379	リン酸コデイン	急性期带状疱疹の疼痛に対し、リン酸コデインを投与しレイウスとなった1例報告。
380	クエン酸フェンタニル	患者自身が調節するフェンタニル貼付システムを使った多施設プラセボ対照試験における有害事象について、薬剤性の重篤例は中等度の悪心と嘔吐を伴う尿閉の1例であり、副作用により試験を離脱した例は実薬群で8例(5.6%)、プラセボ群で(10.6%)であった。
381	シタラビン	AML(M2)を発症し、他院にて化学療法を施行し完全寛解し、骨髄移植等施行したが、骨髄穿刺にて低形成骨髄でMDSを認め免疫抑制剤を中止。その後、胃前庭部後壁に径5mmの陥没を認め、生検にて印環細胞癌と診断された。
382	ケトプロフェン・1-メントール	パラセタモールとシクロオキシゲナーゼ阻害剤との併用は、中動脈や小血管の血管収縮により重症パラセタモール中毒を増悪させる可能性がある。
383	ホリナートカルシウム	結腸直腸癌患者での臨床試験において本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。
384	メトトレキサート	臨床現場で慢性関節リウマチ患者をレフルノミド、レフルノミド/メトトレキサート併用療法またはインフリキシマブで治療した場合の生存解析。
385	ミコナゾール	PVC輸液セットの可塑性溶出および薬剤吸着。
386	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体卒中はその多くが下垂体腺腫の腫瘍内内出血によるところが多い。その起因は様々であるがホルモン剤投与によるものも多い。
387	バルプロ酸ナトリウム	妊娠中にバルプロ酸ナトリウム服用していた患者から産まれた兄弟3人がみな自閉症で、うち長女は二分脊椎症、長男は二分脊椎症と筋ジストロフィーを合併した。
388	塩酸プレオマイシン	ホジキン病患者に対するプレオを含む化学療法(ABVD療法、EBVM療法)において、40歳以上で治療を開始し縦隔照射を受けた患者に、事象としての心筋梗塞合併症の発現リスクが増大した。
389	エストロゲン	乳癌既往のある女性へのホルモン補充療法により乳癌発現のリスクが上昇する。
390	ベンチルヒドロクロロチアジド	イギリス規制当局、高血圧治療におけるチアジド系利尿剤とβ遮断剤の併用を処方しないよう医師に警告
391	レセルピン・カルバゾクロム	イギリス規制当局、高血圧治療におけるチアジド系利尿剤とβ遮断剤の併用を処方しないよう医師に警告
392	塩酸リトリン	リトリンの長期使用は脳室周囲白質軟化症(PVL)発症の危険因子のひとつである。
393	ラミブジン	子宮内で抗レトロウイルス薬に暴露された児に先天異常の発現を認めた。
394	カベルゴリン	セロトニン症状群に関連した薬剤について。

395	ブシラミン	ブシラミン内服中の女性に顔面、両下腿の浮腫を認め、両手指および足趾の爪が黄変した。投薬を中止したところ漸次胸水が減少し爪が正常化した。
396	プレドニゾン	プレドニゾン長期投与中に緑膿菌性肺炎、左人工膝関節感染を発症した。
397	デキサメタゾン	中枢神経系原発悪性リンパ腫の患者65名に対して、高用量のメトトレキサートとシタラピンを中心とした全身化学療法(デキサメタゾン、ビンアルカロイド、イホスファミド、シクロホスファミドを含む)及びメトトレキサート、プレドニゾン、シタラピンの脳室内化学療法から成る治療を行い、反応率等の有効性、毒性を評価した。
398	デキサメタゾン	60歳以下で未治療の多発性骨髄腫の患者399名に対して大量化学療法を行い、その後、自家幹細胞を1回のみ(n=199)、あるいは、2回(n=200)移植し、生存率を比較した。
399	プレドニゾン	節外性NK/T細胞リンパ腫の患者22名に対して、イホスファミド、メトトレキサート、エトポシド、プレドニゾンの投与を3週間間隔で繰り返す救済療法を行い有効性を評価した。
400	デキサメタゾン	再発性または難治性リンパ腫の患者360名に対して、DHAP療法(デキサメタゾン、高用量シタラピン及びシスプラチン)またはESHAP療法(エトポシド、メチルプレドニゾン、高用量シタラピン、シスプラチン)を行い、有効性及び安全性を比較した。
401	プレドニゾン	Aggressive性非ホジキンリンパ腫を持つ高齢患者にCHOP療法におけるドキソルビシンに変えてリボゾーマルダウナルビシン、1～5日目プレドニゾン100mg経口投与を追加する療法(COP-X)の安全性と有効性を評価した。
402	リン酸コデイン	リン酸コデイン投与中に嚥下困難等が発現した。
403	メトトレキサート	限局性骨肉腫患者に対して実施された第一選択治療で高用量イホスファミド追加投与の効果を調査した試験において、敗血症ならびに電解質失調による3例の投与関連死が報告された。
404	メトトレキサート	中枢神経原発リンパ腫患者に対して実施されたパイロット第2相試験において、骨髄抑制による5例の投与関連死が報告された。
405	メトトレキサート	非ホジキンリンパ腫患者を対象としたACVBプレジメンを3週間ごとに4サイクル実施後、地固め療法を実施した群と標準的なCHOP(3週間隔で8サイクル)を実施した群とを比較する無作為化多施設共同第3相試験において、重篤な白血球減少、血小板減少、感染症の発現率及び投与関連の死亡率はメトトレキサートが投与されたACVB群の方が高かった。
406	トコン	家庭内での毒物治療としてトコンシロップを使用すべきでない。
407	エストラジオール	心疾患を有する閉経後女性へのホルモン補充療法により、胸囲の増加を生じた患者では冠動脈性心疾患による死亡リスク及び総死亡リスクが増加した。
408	硫酸アバカビル	特定の患者群において、アバカビル過敏症とHLA-B領域の遺伝子マーカーとの関連が示唆された。
409	硫酸アバカビル	HLA-B*5701及びHsp70-HomM493Tの存在はアバカビル過敏症の発現に関与することが示唆される。
410	ラミブジン	HIV母子感染予防の目的で周産期にジドブジン又はラミブジンに曝露された児はミトコンドリア機能障害の発現リスクが高い。
411	塩酸リトドリン	塩酸リトドリンの投与が契機となり尿崩症を来した例。
412	ロキソプロフェンナトリウム	ロキソプロフェンナトリウムの投与がインスリン自己免疫症候群の誘因であると考えられた例。
413	ロキソプロフェンナトリウム	食道癌術後再建胃管患者にロキソプロフェンナトリウムを投与したところ潰瘍穿孔による胃管心膜瘻を発症し、死亡に至った例。
414	レボホリナートカルシウム	ロイコボリン又はアインボリンを用いた転移結腸直腸癌の臨床試験で1名の治療関連死がみられた。
415	塩酸アムルピシン	塩酸アムルピシンを投与した肺癌患者22例について、小細胞癌、非小細胞癌に対する奏効率は各20%、80%と治験段階と差が無かったが、癌肉腫に対する効果は認められなかった。
416	酒石酸メプロロール	イギリス規制当局、高血圧治療におけるチアジド系利尿剤とβ遮断剤の併用を処方しないよう医師に警告。
417	塩酸プロプラノロール	イギリス規制当局、高血圧治療におけるチアジド系利尿剤とβ遮断剤の併用を処方しないよう医師に警告。
418	アテノロール	イギリス規制当局、高血圧治療におけるチアジド系利尿剤とβ遮断剤の併用を処方しないよう医師に警告。
419	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	切除不能胃癌に対するCDDP+TS-1併用療法の成績の検討において、グレード4の白血球減少が1例認められた。
420	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	切除不能進行再発胃癌に対するティーエスワン投与症例において、グレード4の血小板減少が発現した。

421	ブシラミン	関節リウマチ患者におけるブシラミンによる落葉状天疱瘡の1例報告。
422	プロムフェナクナトリウム	白内障術後の非ステロイド抗炎症薬点眼による角膜上皮障害について検討した。
423	塩酸インデノロール	イギリス規制当局、高血圧治療におけるチアジド系利尿剤とβ遮断剤の併用を処方しなうよう医師に警告。
424	トラフェルミン	B16-BL6マウスに移植したmalignant melanoma細胞がKCB-1により増殖と肺転移を促進した。
425	トラフェルミン	B16-BL6マウスに移植したmalignant melanoma細胞がKCB-1により増殖と肺転移を促進した。
426	トラフェルミン	B16-BL6マウスに移植したmalignant melanoma細胞がKCB-1により増殖と肺転移を促進した。
427	ドンペリドン	併用禁忌としてケトコナゾールがCCDSに追記された。
428	ソマトロピン	成長ホルモン投与開始4年後に側弯症を生じ、その後も投与を続け、側弯症が進行した。
429	エストラジオール	WHI試験のエストロゲン単独療法の一時的停止。FDAがWHI試験のエストロゲン単独療法に関する結果の評価を計画している。
430	ジクロフェナクナトリウム	喘息患者についてアスピリン誘発喘息の発現率を再評価し、これらの患者のよく用いられる一般用医薬品の鎮痛剤に対する交叉過敏症を体系的に調査した。
431	アセトアミノフェン	NSAID <sub>2</sub> 起因性腸炎の臨床亜型を臨床像及び内視鏡像より明らかにし各々の機序を推測した。
432	アンプレナビル	リトナビル200mgによりboostされたアンプレナビルの血中濃度はロピナビル400mgを追加することで減少する。
433	プレドニゾン	プレドニゾンにて治療されていた患者において、腰椎圧迫骨折(ステロイド骨粗鬆症)を来した。
434	プレドニゾン	ステロイド投与中の患者において腎カンジダ症が発現した。
435	プレドニゾン	プレドニゾンによる高コレステロール血症発症。
436	塩酸パロキセチン水和物	SSRI(paroxetineを含めた)の長期投与は乳癌発生リスクを増加させる可能性が示唆された。
437	エトポシド	急性リンパ性白血病の小児の患者において、PREDNISONEとの相互作用によるETOPOSIDEのクリアランス上昇がみられた。
438	クラドリビン	クラドリビン投与を受けた慢性リンパ性白血病患者では肺癌の発現リスクが高まる。
439	塩酸ケタミン	卵巣腫瘍術後の女性。術後創部痛の訴えあり、ケタラールを投与したところ依存性が発現した。
440	ジクロフェナクナトリウム	喘息患者についてアスピリン誘発喘息の発現率を再評価し、これらの患者のよく用いられる一般用医薬品の鎮痛剤に対する交叉過敏症を体系的に調査した。
441	塩酸メキシレチン	塩酸メキシレチンなど複数の薬剤を服用中、多形滲出性紅斑を発現した。
442	人血清アルブミン	アルブミン液輸液後に死亡した8症例。
443	エストリオール	エストロゲン単独療法で脳卒中発作の危険性が増大する。
444	塩酸ブニトロロール	β遮断薬とチアジド系利尿剤との併用により糖尿病発現の危険性が増大する。
445	セフォタキシムナトリウム	セフォタキシムを投与した男児に薬剤誘発性無菌性髄膜炎が発現した。
446	酢酸リュープロレリン	酢酸リュープロレリン又はゴセレリンを長期間投与した前立腺癌患者10例に骨粗鬆症又は骨折が認められた。
447	アザチオプリン	炎症性腸疾患(IBD)患者のうちアザチオプリン投与群において、悪性腫瘍の発現の危険性が高いことが示唆された。
448	カルバマゼピン	カルバマゼピンとの併用によりシンバスタチンとその活性型代謝物アシド体の血中濃度が有意に低下した。



449	乾燥pH処理人免疫グロブリン	治療抵抗性紅斑性狼瘡(LE)に対する低用量での免疫グロブリン静注治療(IVIg)の効果を検討した。そのうち皮膚血管炎が1例発現した。
450	リネストレノール・メストラノール	HRT療法後の乳癌発現の危険率増加を疫学的に調べた。
451	下垂体性性腺刺激ホルモン	不妊治療は内因性卵胞ホルモン産生を促し、暫定的に乳癌リスクを増大させる。
452	ブシラミン	ブシラミン投与236日後に間質性肺炎が発現した。
453	イオキサグル酸	意識障害、ショック、徐脈といった脳血管障害や循環器疾患を疑わせるような主訴で来院し、急性血液浄化にて速やかに改善した2症例の報告において、1例は増悪因子が造影剤とされた。
454	ブスルファン	同胞間末梢血幹細胞移植を受けた患者にRRT、BO、肺炎(各々1例)による死亡例がみられ、幹細胞移植の前処置に用いられた薬剤のなかにブスルファンが含まれていた。
455	メトトレキサート	脳原発悪性リンパ腫の治療において2例の間質性肺炎による死亡が報告された。
456	エストラジオール	乳癌の履歴のある女性へのホルモン補充療法に関する臨床試験が中間解析で乳癌再発リスク増加が示唆された後、中止となった。
457	ホリナートカルシウム	ホリナートカルシウムを併用した化学療法によるフェニトインの薬効減弱。
458	ワルファリンカリウム	PGI2持続静注療法中のPPH患者にワルファリンを併用したところ肺出血を来した例及びPGI2持続静注療法における抗凝固療法の必要性について。
459	エストリオール	エストロゲン及びプロゲステロン併用療法は、プラセボ投与群に比し結腸直腸癌の発現率は低かったものの、癌進行度は高かった。
460	プロピルチオウラシル	PTUによると考えられるMPO-ANCA陽性半月体形成腎炎の発症
461	塩酸ゲムシタビン	再発非小細胞肺癌に対するドセタキセルとドセタキセル・ゲムシタビン併用の第Ⅲ相比較試験中間報告においてドセタキセルとゲムシタビンの併用は肺臓炎のリスクが高いと考えられる。
462	リン酸デキサメタゾンナトリウム	デキサメタゾン投与早産児における高発現率の腎石灰症。
463	プラバスタチンナトリウム	スタチン系薬の使用が悪性リンパ腫に対するリスク因子になる可能性がある。
464	ミダゾラム	小児MCLSにおけるγグロブリン大量静注療法(IVGG)不応例に対する血漿交換療法(PEx)を行う際のミダゾラム使用症例について。
465	リファンピシン	セリプロロールとリファンピシンとの相互作用。
466	ロラタジン	ロラタジンと尿道下裂との関連性について評価するためにCDC(米国疾病管理予防センター)が実施したケース・コントロールスタディーで関連性は認められなかった。
467	ダイズ油	クローン病患者がTPN治療によって肺動脈幹閉塞および肺胞の肉芽腫を発症した症例。
468	エストラジオール	経口避妊薬使用経験のない併用ホルモン補充療法使用者において、乳管癌のわずかなリスク増加が示唆された。
469	エストラジオール	WHIの臨床試験ではエストロゲン・プロゲステロン併用により大腸癌リスクが減少したが、ホルモン補充療法群の女性は大腸癌はプラセボ群の女性よりも進行した時点で診断された。
470	ホリナートカルシウム	ホリナートカルシウムを併用した化学療法によるフェニトインの薬効減弱。
471	メトトレキサート	切除不能または転移性の移行上皮癌(TCC)患者(21名)を対象としたゲムシタビン、パクリタキセル、及びメトトレキサート併用療法の臨床試験において、敗血症性ショックによる死亡が1例報告された。
472	メトトレキサート	手術不能又は転移性尿路上皮癌患者(220名)を対象とし、ドセタキセルおよびシスプラチン併用のDC療法とMVAC療法を比較した無作為化第3相試験において好中球減少性敗血症による死亡が2例報告された。
473	プレドニゾン	プレドニゾンによる維持療法中にカリニ肺炎、投与減量中に左結核胸膜炎を発症。
474	セフォチアム	抗生物質の使用は、乳癌発症のリスクを上昇させる。
475	ピンドロール	イギリス規制当局、高血圧治療におけるチアジド系利尿剤とβ遮断剤の併用を処方しなうよう医師に警告。
476	インダパミド	イギリス規制当局、高血圧治療におけるチアジド系利尿剤とβ遮断剤の併用を処方しなうよう医師に警告。